

令和4年度 城山東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の精神」を基盤として、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい人間を育成する。

具体目標（子ども像）

- 心豊かで思いやりのある子（豊かな心）
 - よく考え進んで学ぶ子（確かな学力と創造性）
 - 健康で明るい子（たくましい健やかな体力）
 - 根気強くがんばる子（あふれる気力・実践力）
- 〈スローガン〉 「ふれあい つながり 学び合う 城山東小学校」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人の能力を伸ばし未来をたくましく生き抜くための基礎となる力を培うために、保護者や地域との連携を図りながら、教職員が協働して、知・徳・体の調和のとれた教育を推進する。

（1）目指す学校像

- ・ 温かさと活気に満ちた学校
- ・ 安心・安全な学校
- ・ 地域とともにある学校

（2）目指す教職員像

- ・ 人間性豊かで信頼される教職員
- ・ 児童とともにある教職員
- ・ 学び続ける教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）思考力や表現力の育成のために、カリキュラム・マネジメントを進めることにより、教育活動のさらなる質の向上と教育効果の向上を目指す。
- （2）「心豊かで思いやりのある子」を育成するため、全ての教育活動を通して、生命と人権を尊重する心や他者への思いやりの心を育む道徳教育を推進する。
- （3）「よく考え進んで学ぶ子」を育成するため、学業指導を基盤に、学習意欲を高めつつ知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等を育む教育活動を推進する。
- （4）「健康で明るい子」を育成するために、健康で安全な生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。
- （5）「根気強くがんばる子」を育成するため、夢や目標に向かって希望をもち努力させる活動や、学級・学校のために協働する力を育む教育活動を推進する。
- （6）教職員が、倫理観と使命感をもち、資質・能力向上のために自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にして教育活動を展開し、誰からも信頼を得られるように努める。
- （7）教職員が健康でやりがいをもって勤務し、質の高い教育が展開できるように、働き方改革の視点に立ち、職場環境改善の取組を推進する。
- （8）城山地域学校園と、魅力ある学校づくり地域協議会の組織を活用し、地域とともにある学校づくりを推進する。

〔城山地域学校園教育ビジョン〕ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

「自他を尊重し、郷土に愛着をもち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成

《スローガン》みんなで育てよう！ 自分を愛し、仲間を愛し、地域を愛する城山の子

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則並びに学習指導要領、県や市の教育ビジョン等を踏まえ、児童の実態や地域社会の実情に基づき、「人権教育」を基盤に特色ある教育の展開が図れるよう編成する。
- （2）知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、心身ともに健康でたくましい児童を育むことを目指して編成する。
- （3）学習指導要領を踏まえ、教育内容の質的な充実を目指した学習指導を展開し、ICTの活用を図りながら、基礎的・基本的な内容の定着と個に応じた学習指導の充実に努める。
- （4）カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、思考力・表現力と自己有用感を高めるために、各教科・特別の教科 道徳・総合的な学習の時間・特別活動・外国語活動等の関連を図った教育活動を展開する。特に「大谷プラン」の充実を図り、人や社会と関わる力や表現力を育成する。
- （5）前年度の評価、児童の実態、社会情勢、地域社会の実情等踏まえ、教育活動に創意工夫を加えて、児童の主体的、実践的

活動を十分に生かせるように配慮するとともに、目標の重点化による教育活動の精選を行い、児童と向き合う時間や教材研究の時間を産み出し、教育の質の向上を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
○児童と教職員が生き生きと活躍できる場とするための学校組織の構築
【学 習 指 導】
○つながりの中で、自ら考え学び合う子どもの育成
【児 童 生 徒 指 導】
○人とのかかわりを大切に、豊かな心を育てようとする子どもの育成
【健康（体力・保健・食・安全）】
○自他の生命を大切に、進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子どもの育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①発表や挙手の仕方、ノートを取り方等の「学習のきまり」を徹底し、生日に向かう環境を整えるようにする。 ②「自ら考え学び合う子」を育成するために、ICT 機器を有効に活用しながら、主体的・対話的な授業の実現に向けた取組を行う。 ③児童の学習意欲を高めるため、教材教具や指導方法について工夫・改善を行う。	B	【達成状況】 A 1 ⇒肯定的回答率が児童 94.0% (+2.1), 教職員 93.3% (+8.3) ① 学習指導主任が中心となって、「学習のきまり」守らせる指導を粘り強く行った。 ② 「考えるための技法（思考のすべ）」を活用しながら主体的・対話的な学習を取り入れる共通実践を行った。 ③ I C T 機器の活用を場を意図的に増やし、児童の学習意欲を高めて授業を展開した。 【次年度の方針】 ① 授業の受け方やノートを取り方など、基本的な学習習慣の確立の指導を継続して行う。 ② 「考えるための技法（思考のすべ）」を活用しながら主体的・対話的な学習のさらなる充実を図っていく。 ③ I C T 機器を有効に活用について、さらに研究を深めていく。

A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①伝え合う力や自己を見つめる力を養えるよう、「考え、議論する」授業展開を工夫し、「特別の教科 道德」の授業の充実を図る。 ②縦割り班活動や縦割り班清掃など異年齢との交流を通して、児童の思いやりの心を育む。 ③各学級の「ふれあいコーナー」などを活用し、児童が認め合うことにより、意欲を高める。 ④全教育活動を通して、人権意識の醸成を図り、児童一人一人が互いに思いやり、相手の立場に立って物事が考えられるようにする。	【達成状況】 A 2⇒肯定的回答率が児童 89.7.% (+4.7), 教職員 86.7% (+1.7) ① 道德科の授業の充実を図るため、教材研究に取り組んだ。 ② 縦割り班清掃においては、反省の際に「あったか言葉」を入れて振り返りを行った。 ③ 「ふれあいコーナー」に児童のよさなどを認め合う取組を行うことができた。 ④ 教員が学年を超えて、児童を認め褒めるよう努め、相手の立場に立って物事を考えられるよう、丁寧に指導を行った。 【次年度の方針】 ① 継続して実施していく。 ② 縦割り班活動の内容の工夫を検討していく。 ③ 継続して実施していく。 ④ 相手の立場を考えた言動など、人権意識の醸成を図っていく。
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①生活のきまり（「よい子のやくそく」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、生活当番活動等を行い、同歩調で連携して取り組む。 ②月の目標に基づき各学級で生活目標を考え、朝の会や帰りの会等で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高める。	【達成状況】 A 3⇒肯定的回答率が児童 85.5% (+0.5), 保護者 85.1% (+0.1) ① よい子のやくそくについての振り返りを行い、意識付けを図った。きまりやマナーについては、継続して指導を続ける必要がある。 ② 週の始めに児童指導主任から週目標を児童に伝え周知を図った。 【次年度の方針】 ① 児童指導強化週間を設定し、廊下の歩行など具体的に改善すべきことについて、代表委員や教職員で共通に取り組んでいく。 ② 児童が主体的に呼びかけを行うなどの取組を進めていく。
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①継続的な指導に加え、PTA、「地域協議会」と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を呼びかける。 ②長期休業明けに代表委員を中心にしたあいさつ運動を実施する。 ③下校時の一斉あいさつを高学年主導で行うことで、あいさつの意識付けを図る。	【達成状況】 A 4⇒肯定的回答率が児童 91.5% (+6.5), 保護者 78.3% (-6.7) ① 教員から挨拶をよびかけ、さわやかなあいさつが返ってくるよう努めた。次年度は、め地域協議会と連携してあいさつ運動を行いたい。 ② 代表委員を中心としたあいさつ運動では、さわやかなあいさつができた児童を発表することで、意欲を高めることができた。 ③ 6年生中心となって、げんきなあいさつを行うことができた。 【次年度の方針】 ① あいさつの取組を周知しながら、PTAや地域協議会と連携し、「大人から子供へ」を合言葉にさわやかなあいさつを推進する。 ② 児童会を中心に、あいさつ運動を継続、実施し、振り返りを家庭と共有する。 ③ さわやかなあいさつができる児童を認め誉める機会を設ける。

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①キャリア・パスポート等を活用しながら、学級活動の授業等で学期の始めに自分の目標を考えたり、終わりに自らの成長や変容を振り返る活動を実施する。 ②各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組むことの大切さに気付かせるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。	【達成状況】 A5⇒肯定的回答率が児童 89.7% (4.7%) 教職員 86.7% (+1.7) ① キャリア・パスポートを活用しながら、自己の成長や変容を振り返ることができた。全校生の本年度の目標が分かるよう掲示物を工夫した。 ② 体力アップタイムを長なわ集会とし、児童が興味をもって取り組めるよう工夫した。 【次年度の方針】 ① キャリア・パスポートを有効に活用しながら継続して実施していく。 ② 児童が目標をもって取り組める場面を意図的に設定していく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①交通安全教室や自転車免許事業などを通して、登下校指導体制の充実を図るとともに定期的に避難訓練を実施するなど、児童が自らの命を守り抜くための行動力を身に付けさせる。 ②学校栄養士が全校で食育指導を行うことで、児童の食への関心・意欲を高めるように努めるとともに、積極的な情報発信に努める。 ③生活目標や保健だより等で正しい姿勢や健康的な生活などについて呼びかける。 ④体力アップ集会や「体づくりカード」の活用などを通して児童の体力向上に努める。 ⑤児童に手洗いや換気など、感染症防止のための行動力を身に付けさせる。	A 6⇒肯定的回答率が児童 99.1% (+14.1) 保護者 89.6% (+4.6) ① 保護者やボランティアと連携を図り、登下校指導体制の充実を図るとともに交通安全教室などを通して、取組の充実を図った。 ② 「食育だより」を毎月発行し、児童の食への関心が高めることができた。 ③ 「保健だより」を毎月発行し、健康的な生活についての周知を図った。 ④ 体力アップタイムでは、児童の運動への関心・意欲が高めることができた。 ⑤ 手洗いやマスク着用など、感染予防のための正しい行動が取れるよう、指導を行った。 【次年度の方針】 ① 安全な登下校や、避難訓練の充実について、登校班会議など、児童が安全について考え話し合う機会を設ける。 ② 継続して実施していく。 ③ 継続して実施していく。 ④ 継続して実施していく。 ⑤ 感染症予防指導を引き続き行う。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童が自分や他者の生き方に関心をもち、未来を切り開いていこうとする態度を育むため、総合的な学習の時間において、キャリア教育の取組として「12歳のハローワーク」を実施する。 ②係活動や委員会活動の充実を図り、児童の自己有用感を育成する。	【達成状況】 A7⇒肯定的回答率が児童 89.7% (+4.7) 教職員 86.7% (+1.7) ① 6年の総合的な学習の時間で、自己の生き方に関心をもち、進んで職業について調べることができた。 ② 係活動や委員会活動では、一人一人役割をもって取り組むことができた。 【次年度の方針】 ① 今年度の取組を評価し、工夫改善を行っていく。 ② 児童の創意や提案を生かしながら、達成感が味わえる活動を仕組んでいく。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童が英語を使って自分の気持ちや考えなどを伝えることができるよう、A L Tを活用した授業の充実を図る。 ②児童が英語を使って簡単なコミュニケーションができるよう、給食や昼休みなどにおいてA L Tと触れ合う時間を確保する。	【達成状況】 A 8⇒肯定的回答率が児童 84.6% (-0.6) 教職員 80.0% (-5.0) ① A L Tを活用した授業の充実を図るため、入念に計画を立てた。 ② 業間や昼休みなどにおいて、A L Tと触れ合う機会をもったが十分ではなかった。 【次年度の方針】 ① A L Tを活用した授業の充実を図るため、教員とA L Tが打ち合わせをする時間を設ける。 ② 児童が英語を使って簡単なコミュニケーションができるよう、給食や昼休みなどにおいてA L Tと触れ合う時間を計画の中に入れる。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①宇都宮学副読本や社会科副読本を活用して、宇都宮の様子や産業を知る学習を通して、宇都宮の特色やよさについて理解させる。 ②生活科「町たんけん」、「大谷プラン(歩け歩け遠足)」等を通して、宇都宮の暮らしを支える人々について関心を高める。	【達成状況】 A 9⇒肯定的回答率が児童 89.7% (+4.7) ① 「宇都宮学」コーナーを設置し、宇都宮のよさを知らせることができた。 ② 「町たんけん」や「大谷プラン」を通して、宇都宮(地域)よさについて関心をもつことができた。 【次年度の方針】 ① 3・4年では社会科副読本を活用し、「宇都宮学」を指導していく。 ② 大谷プランを宇都宮学と関連させながら取り組んでいく。
A 10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①情報活用能力の育成を図るため、タブレットパソコンや学校図書館を活用した授業を実施する。 ②読書に関する意識向上のための読書コーナーの設置等を計画的に行う。	【達成状況】 A 10⇒肯定的割合が保護者 79.4% (-5.6) 児童 93.2% (+8.2) ① 昨年度よりも授業の中で一人一台端末を活用する場面が増加した。 ② 図書館司書員と協力し、児童会活動や読み聞かせなど学校の教育活動に活用している。 【次年度の方針】 ① 学校図書館の活用は継続して取り組む。GIGA スクール構想の推進に伴い、児童の発達段階に応じた適切な情報モラルの実施を図っていく。また、I C T 機器や図書の活用については、授業参観等の行事との関連を図るとともに、HP を通して啓発を図っていく。 ② 児童が活用しそうな図書を事前にチェックをして、準備しておく。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①授業や学校行事で児童に高齢者や学校支援ボランティアとかかわらせることにより、感謝の気持ちをもたせる。 ②総合的な学習の時間において、福祉教育の取組として、高齢者福祉施設の訪問などを実施する。	【達成状況】 A 11⇒肯定的回答率が児童 89.7% (+4.7) 保護者 87.9% (+2.9) ① 「感謝の会」において、ボランティアの方々に感謝の気持ちをもたせることができた。 ② 総合的な学習の時間における高齢者福祉施設訪問は実施できなかったが、児童の活動の様子を記録し高齢者施設に贈った。 【次年度の方針】 ① 継続して実施し、ボランティアへの感謝の気持ちを育まれるよう支援をする。 ② 実施の方向で進めていく。

目 指 す 学 校	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①持続可能な社会の担い手を育むため、総合的な学習の時間において、環境教育の取組として「地球からのメッセージ」を実施する。 ②避難訓練時に、世界中で起きている地震や竜巻などの現象について触れ、防災について関心を持たせる。 ③生活科、理科で植物を育てる学習の際に意識付けを図る。 ④ゴミの分別や牛乳パックリサイクル、節電を行うことで、持続可能な社会に貢献している意識を持たせる。	【達成状況】 A12⇒肯定的回答率が児童 88.0% (+3.0) 教職員 66.7% (-18.3) ① 持続可能な社会の担い手を育むため、総合的な学習の時間において、環境教育の取組として「地球からのメッセージ」を実施。 ② 避難訓練時に、世界中で起きている地震や竜巻などの現象について触れ、防災について関心を持たせることができた。 ③ 生活科、理科で植物を育てる学習の際に意識付けを図った。 ④ ゴミの分別や牛乳パックリサイクル、節電を行うことで、持続可能な社会に貢献している意識を持たせることができた。 【次年度の方針】 ① 節電、節水、ゴミの分別の取組を周知しながら、PTA や地域協議会との連携をし、SDGs を推進する。 ② 児童会を中心に、全児童参加してごみの分別運動を継続、実施していく。集会などでも、児童主導で節電と節水の啓発運動を行うなど、SDGs の意識付けを図り、持続可能な社会作りに自信がもてるようにする。
	B1 児童は進んで本を読んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①読書の時間や定期的なボランティアによる読み聞かせ、ビブリオバトルなどにより、読書に対する興味関心を高める。 ②市立図書館学校支援室の有効活用や、家庭と連携した家読の実践等、児童と本をつなぐ取組を推進する。	【達成状況】 B1⇒肯定的回答率が児童 89.7% (+4.1) 保護者 75.8% (-9.2) ① ボランティア・教職員による読み聞かせやビブリオバトルカードコンテストなどの取組により、読書に対する興味・関心を高めることができた。 ② 家読の推進など、家庭との連携を図りながら指導の充実に努めた。 【次年度の方針】 ① 児童が様々なジャンルの本に親しむことができるよう、推進する。また読書の取組についての周知を図りつつ、継続して実施していく。 ② 長期休みの家読を継続するなど、引き続き家庭との連携を図る。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①校内支援委員会を開催し、特別な教育的支援が必要な児童についての情報共有を図り、指導方法や支援方法について検討する。 ②児童の実態に応じて、かがやきルームにおける指導の充実や、特別支援学級の児童が通常学級へ交流及び共同学習を行うなど、取組の充実を図る。 ③2週間に1回、児童に関する情報交換を行い、共通理解を図る。	【達成状況】 A13⇒教職員の肯定的回答率が100% (+15) ① 校内支援委員会において、検討することができた。 ② かがやきルームにおける指導では、指導員と担任が連絡を密に行い、効果的に行うことができた。 ③ 共通理解を図ることができた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施していく。 ② 今後も個に応じた支援ができるよう努めていく。

の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 80%以上	①全職員が改訂版「本校いじめ防止対策基本方針」について共通理解を図るとともに、言葉によるいじめの未然防止の取組の充実、初期段階からの組織的な対応の徹底など、教育活動全体を通して「いじめは決して許されない」ことを指導する。 ②強化期間における取組や「いじめ〇集会」等の工夫を行うとともに、家庭・地域とより連携を深めながら指導に当たるとともに、実施前後に学年だより等で情報発信する。 ③教育相談やアンケートで実態を把握し、気になることは教職員で共有し、速やかに対応する。	B 【達成状況】 A14⇒肯定的回答率が児童 98.3% (+13.3) 保護者 74.1 (-5.9) ① 「いじめ防止対策基本方針」の理解が深まった。 ② 広報委員会を中心にいじめ撲滅に向けた呼びかけを行うことにより、意識を高めることができた。 ③ ICT を活用して実態把握をし、教職員で共通理解を図るなどして早期発見に努め、指導に生かすことができた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施していく。 ② PTA 役員会や保護者会、地域協議会などにおいて、いじめ防止への取組について周知を図りつつ、連携していじめ防止に取り組んでいく。 ③ 継続して実施していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①一人一人の力が生かされ、児童相互に認め合う学級経営の充実を図る。 ②「城山東キラリ賞」や「宮っ子心の教育表彰」を活用しながら、日頃から全教職員による認め励ます教育を推進する。 ③不登校が心配される児童については、定期的に情報交換を実施し、早期対応を図る。	B 【達成状況】 A15⇒肯定的回答率が児童 96.3% (+11.3) 保護者 88.5% (+3.5) ① 「城山東キラリ賞」などで、認め励ます教育を進めることができた。 ② SCや市教委相談員等から助言を受けながら、保護者とともに対応を検討し、進めることができた。 ③ 養護教諭や教務主任が積極的に関わるなど、組織的に対応することができた。 【次年度の方針】 ① 継続して実施していく。 ② 継続して実施していく。 継続して実施していく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①外国人児童が円滑に学校に編入学し、学校生活を送ることができるよう、受け入れ体制の確立を図る。 ②必要に応じて、はばたき教室への通級や日本語指導講師等の活用等の情報収集等を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答⇒100% (+10) ① 転入した児童に対し、翻訳機能を活用したり、ゼスチャーを使ったりしながらコミュニケーションを図った。 ② 日本語指導のボランティアと連携を図って、日本の文化等が理解できるよう努めた。 【次年度の方針】 ① さらなる共通理解を図り、個に応じた支援が図れるよう組織的に取り組んでいく。 ② 日本語ボランティアとの連携また、研修を行うなどして児童が通いやすい環境づくりに努める。

A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 80%以上	①児童同士や教師と児童の温かなつながりがあり、居がいがある学級経営を基盤として、自己有用感と自己実現の喜びを味わうことができる教育活動を実践する。 ②「東小タイム」を中心に、よりよい人間関係づくりをする。 ③縦割り班活動を推進し、児童同士の交流を深める。	【達成状況】 A17⇒肯定的回答率が児童 93.2% (+13.2) 保護者 73.8% (-6.2) ① 学級経営を基盤として、学級活動等さまざまな場面で児童のよい姿を称賛するなど、自己有用感を高められるような取組を行ってきた。 ② 「東小タイム」を通して、学級のよりよい人間関係づくりを図ることができた。 ③ 縦割り班活動では、自由遊びや清掃活動などで、児童同士の交流を深めることができた。 【次年度の方針】 ① 本校の特色である地域の人材等の資源を生かした人とのつながりの中で、達成感や充実感を味わわせる活動の工夫を行い、自己有用感を高められるようにする。 ② 「東小タイム」では、担任が児童と共に活動したり、児童会を中心とした活動を計画したりして帰属意識を高める。 ③ 状況に応じて、縦割り班給食などを再開するなどして縦割り班活動の充実を図り、児童同士の交流をさらに深めていく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①日々の授業がより分かりやすくきめ細やかなものとなるよう、「宇都宮モデル」を活用して主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。 ・ねらいの明確な提示 ・まとめ、振り返り活動の充実 ・学習形態の工夫、個に応じた指導 ②「考えるための技法（思考のすべ）」などを活用し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ③朝の学習「ぐんぐんタイム」や家庭学習の課題の工夫などにより、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。	【達成状況】 A18⇒肯定的回答率が児童 99.1% (+14.1), 保護者 83.1% (-1.9) ① 授業において、めあての提示や、まとめ・振り返りの実施など共通理解を図りながら進めた。<u>（宇・はつきり・じっくり・すっきり）</u> ② 「考えるための技法（思考のすべ）」等を活用し、授業の充実を図ることができた。 ③ 担任外の教員も朝の学習に参加し、個に応じた指導の充実を図ることができた。また、AIドリルや漢字ドリル、計算ドリル、プリント類を活用し、基礎基本の定着を図った。 【次年度の方針】 ① <u>引き続き「宇都宮モデル」を活用し「㊦・㊧」を用いて、授業改善に取り組んでいく。</u> ② さらに、研究を進め、授業の充実を図っていく。 ③ 基礎・基本の確実な定着を目指し、朝の学習「ぐんぐんタイム」の活性化を図り全校体制で充実させる。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員 85%以上	①学校図書館司書、学校栄養職員、学力向上非常勤嘱託員、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携・協働しながら効率的・効果的に業務を進めるように努める。 ②「チーム城山東」の一員として、報告・連絡・相談を確実に実施するとともに、互いに助け合える雰囲気づくりに努める。	【達成状況】 19⇒教職員の肯定的回答率が 100%(目標値比+15%) ① 全ての教職員が一丸となり、各機関と連携を図りながら、学校経営計画の具現化に向けて、効果的に業務を行うことができた。 ② 困ったことは相談し合ったり、わからないことは教え合ったり、互いに助け合う雰囲気が醸成された。 【次年度の方針】 ① 継続して取り組んでいく。 ② 継続して助け合える雰囲気づくりに努めていく。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①学校行事の後には振り返りを実施し、次回に向けて効率的な実施方法等について検討するとともに、精選及び校務の効率化により、児童と向き合う時間を確保する。 ②出退勤の時間を意識し、効率的な業務遂行に努めるとともに、リフレッシュディを確実に実施する。 ③学級支援事務と連携協働しながら、効率的、効果的に業務を進めるように努める。	【達成状況】 A20⇒教職員の肯定的回答率が 93.3%(+8.3) ① 教務主任を中心として、行事ごとに振り返りを実施し、行事の精選に努めた。また、可能な限りDX化を図り効率化を図った。 ② 個人が決めたリフレッシュディの実施に努めることができた。 ③ 学級事務支援の協力のもと、業務の効率化がはかれた。 【次年度の方針】 ① さらに精選及び公務の効率化に努めていく。 ② 本年度の取り組みを継続しつつ、業務の効率化を図っていく。 ③ さらに学級事務支援員等との連携を図り、担任の負担軽減を図っていく。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①地域学校園教育ビジョンの具現化を図るため、各部会・教科部会の活動の充実を図り、園内の学校で共通した取組を実施する。 ②あいさつ運動における小中の交流を実施し、情報を発信する。 ③地域学校園内で授業を公開し、授業の充実や教職員の相互理解を図る。	【達成状況】 A21⇒肯定的回答率が保護者 85.4%(+0.4)、教職員 100%(+15.0) ① 地域学校園各部会等で連携し、共通の取組を行った。 ② 小・中学校間の交流を行い、学校だよりなどで発信できた。 ③ 地域学校園内の学校に授業を公開せず、本校のみで実施した。 【次年度の方針】 ① 継続実施していく。 ② 継続実施していく。 ③ 感染症拡大防止対策をとった上で、地域学校園内の学校には授業を公開し、研修の充実に努めていく。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①校外学習、地域とのふれあい学習、農園活動、教科等（生活科、図画工作科、家庭科、総合的な学習の時間）などにおいて、地域人材・施設・文化財を積極的に活用する。 ②給食に地域の食材を積極的に取り入れ、啓発を進める。	【達成状況】 A22⇒肯定的回答率が児童 91.5%(+6.5)、保護者 86.9%(+1.9) ① 地域人材・施設・文化財の活用推進を通して、「大谷プラン」を行うことができた。また、豊かな環境を生かして、さつまいも堀りなどの農園活動を行うことができた。 ② 地域の食材を積極的に取り入れるとともに、給食だよりや校内放送で周知を図った。 【次年度の方針】 ① 継続実施しつつ、新たな教育資源の開発に努める。 ② 継続実施していく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①地域の方々、学習ボランティアとの交流や、企業及び関係諸機関と連携した授業を、各学年とも積極的に計画し実施する。「地域協議会」の趣旨を生かしたボランティア募集やPR活動等の活性化により、協力者層の拡大に努める。 ②「地域とともにある学校」の具現化を図るため、家庭や地域と連携・協力した取組を充実させるとともに、情報を積極的に発信する。	【達成状況】 A23⇒肯定的回答率が児童 91.5% (+6.5), 保護者 86.9% (+1.9) ① 地域コーディネーターと連携・協力し、学習ボランティアの充実を図った。また企業等と関わった学習を充実させることができた。 ② 地域協議会委員やPTA役員とともに会議や行事の検討を行い、状況に応じた対応を行った。 【次年度の方針】 ① 継続実施をしていく。 ② 地域協議会やPTAの意見を基に学校運営に生かしていく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒保護者・地域 85%以上	①児童生徒の安全な学習環境の確保を図るため、施設・設備、器具・用具などの定期的な安全点検を実施し、安全で快適な学校づくりに努める。 ②運動会や感謝の会などの学校行事の前後など、必要に応じて臨時に安全点検を実施する。	【達成状況】 A24⇒肯定的回答率が保護者 91.2% (+6.2), 地域 88.9% (+3.9) ① 定期的に点検を実施し、安全を確保することができた。 ② 学校利用団体が体育館や校庭を快適に使用できるよう、調整を行った。 【次年度の方針】 ① 継続実施していく。 ② 継続実施していく。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①一人一台端末操作のスキルアップを図って、有効に活用しながら、思考力・表現力の向上に努める。 ②学校図書館において、学習センター、情報センターとして、授業の目的にあった図書資料が検索できる環境を整備する。	【達成状況】 肯定的回答率が児童 93.2% (+8.2), 保護者 79.4% (-5.6) ① 一人一台端末が、有効活用できるよう、環境は整ってきている。教職員においては授業で積極的に活用している場面が多く見られた。児童の使用上のトラブルが見られているので、情報モラル教育を今後も継続していく必要がある。 ② 授業で活用しやすいよう、図書資料を整理し、環境整備に努めた。 【次年度の方針】 ① 一人一台端末が教育活動で効果的に運用されるよう、環境の整備(ICT支援員との連携、機器保守など)に取り組む。また、教職員での情報共有を行い、有効な活用方法や、使用上の課題の解消に努めたい。 ② 継続して実施していく。
B2 学校は、校内研修やOJTによる実践的な学びを推進し、指導力の向上につなげている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①OJTによる実践的な学びを推進し、授業力の向上に努める。 ②教育専門職にふさわしい資質・能力の向上のために、校内研修の計画的な実施と自己研鑽に努める。 ③外部講師等を活用した教職員研修を実施するなど、教員の指導力の向上に努める。	【達成状況】 B2⇒教職員の肯定的回答率が 93.3% (+3.3) ① 「一人一授業」の取り組みでは、思考力や表現力を高めることを目標にし、教員間で授業を見せ合う取組を実施した。また、日常的に教職員同士が教え合っている。 ② 計画的に校内研修を行うことができた。 ③ 市教委関係職員の指導を受けながら、充実した研修が実施できた。 【次年度の方針】 ① 学校課題に基づき研究テーマを決めて共通実践を進めていく。 ② 継続実施していく。 ③ 継続実施していく。

	B3 教職員は「予防的対応」「対処的対応」など、危機管理に努めている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒保護者・教職員 85%以上	①緊急時の対応、日常の安全管理等、危機管理についてマニュアルに基づき、教職員が緊急時すぐに対応できるようにするとともに、随時、マニュアルの点検、見直しを行う。 ②予防的対応の充実を図るため、全教職員の危機管理意識の高揚を図り、危機管理に関する情報交換を日常的に行う。 ③必要に応じて「日々の記録」に記録し、確実に引継ぎを行う。	B 【達成状況】 B3⇒肯定的回答率が保護者 88.1% (+3.1), 教職員 100.0% (+15) ① 危機管理マニュアルに基づき、緊急時の対応に備えることができた。 ② 危機管理意識の高揚を図るため、コンプライアンス遵守に係る研修を行った。 【次年度の方針】 ① 今後も継続実施ししていく。 ② 定期的に情報交換を行っていく。 ③ 継続実施
本校の特色・課題等	B4 教職員は、児童理解を基盤に学級経営の充実を図り、学級内の人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①Q-Uテスト等を有効活用し、児童理解と信頼関係に根差した居がいのある学級づくりを目指していく。 ②各学級に「ふれあいコーナー」を設置し、児童相互の認め合いの場として活用する。 ③互いに励ましあう言葉など、温かい言葉が使えるよう常時指導する。 ④児童のよさや成長など、小さな気付きを保護者に伝える。	B 【達成状況】 B5⇒肯定的回答率が児童 97.4% (+12.4), 保護者 93.5% (+8.5) ① 教員間の情報交換をもとに、児童理解に努め、学級経営の充実にも努めた。 ② 「ふれあいコーナー」で児童の良さを認めあうことができた。 ③ 温かい言葉が使えるよう、常時粘り強く指導を行った。 ④ 保護者との連絡を密にし、情報の共有に努めた。 ⑤ Q-Uの有効活用についての研修をし、理解を深めた。 【次年度の方針】 ① 更にQ-Uテストを学級づくりに生かしていく。 ② 継続実施していく。 ③ 継続実施していく。 ④ 継続実施していく。

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

10評価項目（全29評価項目）については、すべての評価対象において85%以上の結果を得た。

10評価項目において肯定的回答が80%未満となっている評価対象がある。

【目指す児童の姿】

A1「進んで学習に取り組む」については、93.3%，保護者 89.1%，児童 94.0%と高評価であった。学習指導主任が中心となり、家庭学習の工夫やAIドリルの活用等、取組を継続実施してきた成果であると考えられる。

A3「決まりやマナーを守って生活」については、教職員 86.7%，保護者 85.1%，児童 85.5%であり、細かいところを見逃さずにルールを決めたり指導を続けてきたりした成果が表れ始めている。

A6「健康や安全に気を付けて生活している」については、教職員 100%，保護者 89.6%，児童 99.1%と高評価であった。養護教諭や安全主任が中心となり、こまめに児童に呼びかけたり、保護者に通知をしたりしたことの成果であると考えられる。

【目指す学校の姿】

A15「不登校を生まない学級経営」については、教職員 100%，保護者 88.5%，児童 96.6%と高評価であった。児童一人一人の活躍の場を設けるなど居がいのある学級づくりに努めながら、児童の良さを認め褒める指導を続けた成果であると考えられる。

【本校の特色・課題】

A4「あいさつ」については、教職員は 93.3%，児童は 91.5%の高評価に対し、保護者の肯定的回答は 78.3%であったが、昨年度より9.5ポイントアップしている。今後も家庭や地域と連携しながら、挨拶を呼び掛ける続けることの重要性について共通理解をし、取組の充実を図る必要がある。

A14「いじめが許されない行為である」については、教職員が 100%，児童が 98.3%であったのに対し、保護者は 74.1%となった。いじめが起きないような取り組みを行っているのかを、保護者に伝え理解を得る必要がある。また、児童の思いに寄り添う支援を続けながら、保護者が話しかけやすい雰囲気づくり家庭との連携強化を図る必要がある。

A17「学校は明るくいきいきとした雰囲気」については、教職員 93.3%，児童 93.2%に対して、保護者は 73.8%であった。思いやりの心を育み、活力ある学校づくりの一層の推進を図る必要がある。

B1「児童は本を読んでいる」については、教職員 93.3%，保護者 89.7%であるのに対し、保護者 75.8%である。一人一段端末を活用する時間とのバランスをとり、継続してボランティアの協力を得たり、家読の機会を設けたりするなどして、本に興味のある児童の育成が必要である。

7 学校関係者評価

【学校が行った自己評価について】

- ・評価は適切である。
- ・あいさつは、まず「大人から子供へ」を基本に、呼び掛けると良い。人数も少ないことから、「〇〇さんおはよう」と名前を呼んであいさつを呼びかけてはどうか。
- ・地域の人と児童たちの交流を増やしていけると良い。
- ・児童が共通の課題をもって互いの考え方の違いを理解できるよう工夫しているところが良い。
- ・学校と保護者、地域が連携し、活気ある学校づくりを推進してほしい。
- ・親子で学ぶ学習を取り入れ、充実した学校生活が遅れると良い。
- ・いじめの取組については、児童が98.1%であるが、100%を目指していくべき。また、保護者が74.1%の評価であるのは、保護者同士の会話の中に「いじめ」に関するような話題が上がるのではないか。
- ・明るくいいきと活動する学校とするためには、児童から経緯を聞きとって支援にあたり、児童理解を深めると良い。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

「児童と教職員が生き生きと活躍できる場とするための学校組織の構築」の重点目標のもと、地域との連携を図りながら、地域とともにある学校を目指して教育課程を進めた。次年度においては、児童が活躍する場を意図的に設けたり、紹介・公開したりするし、また、地域の協力を得ながら、開かれた教育課程を実施しながら、さらに温かさや活気あふれる学校づくりに努めていきたい。

【学習指導】

「つながりの中で、自ら考え、学びあう子供の育成」の重点目標のもと、「考えるときのヒント」を活用して思考の手助けとしたり、「一人一台端末」を表現の場としたりして、思考力・表現力の育成に取り組んできた。次年度も、「考えるための技法（思考のすべ）」を活用しながら主体的・対話的な学習のさらなる充実を図っていく。ICT機器を有効に活用について、さらに研究を深め、個別最適な学びの充実を目指して、教師の授業力向上また、授業改善に取り組んでいきたい。

【児童生徒指導】

「人とかかわりを大切に、豊かな心を育てようとする児童の育成」の重点目標のもと、「あ：挨拶・じ：時間・あ：あったか言葉」→「あ・じ・あ」を合言葉として、あいさつ運動に力をいれたり、児童理解に努め温かい環境づくりに努めたりした。今後も、地域や保護者と連携しながら、「さわやかな挨拶のできる児童」「思いやりの心の育成」に注力していきたい。

【健康（体力）・保健・食・安全】

「自他の生命を大切に、進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子どもの育成」の重点目標のもと、自らの心身の健康を維持するため正しい判断力と行動力を身に付けられるよう、指導の充実を図ってきた。また、ボランティアの協力を得ながら、登校指導や下校指導を行うなどして、児童の安全を見守った。今後も、これらの取組を継続しつつ、自他の命を守る安全教育の更なる充実に取り組んでいきたい。